

ICCCBE2010 & EG-ICE10
(The University of Nottingham, UK)
参加報告

ICCCBEとは

●ICCCBE

(International Conference on Computing in Civil and Building Engineering)

土木・建築工学におけるコンピュータの活用に関する国際会議

・2年おきに大陸間の持ち回りで開催

・前回は2008年に北京で開催

●本年度（2010年）は、英国開催

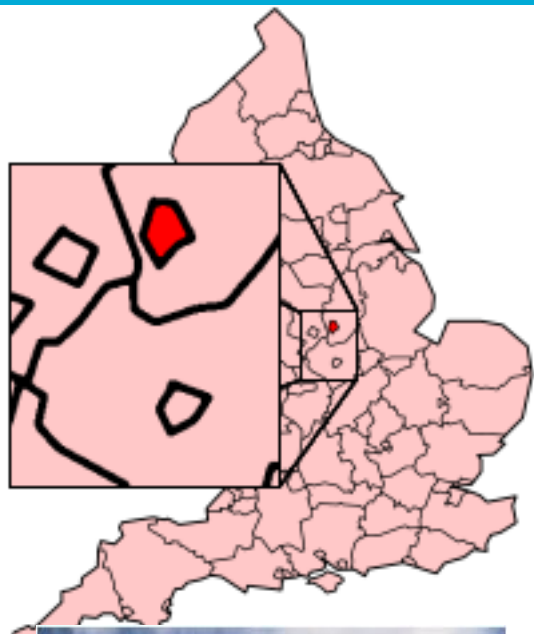
・The University of Nottingham)

●発表を行う論文は、422件の投稿論文より、2度の査読を通過した303件

・40カ国より253の大学や研究機関が参加

The University of Nottingham?

Nottingham



- 英国の中心部ノッチングムシャー地方
- ノッチングム大学（The University of Nottingham）は、実践的な教育を行う大規模な総合大学であり、研究大学としてイギリスのトップクラスに数えられ、大学ランキングでもトップ10の常連であり、2003年には2人のノーベル賞受賞者を輩出しています。メインキャンパスは市の中心から約5キロの郊外にあり、緑の美しい広々とした環境にあります。

主な発表分野



The International Conference on Computing in Civil and Building Engineering – 2010
&
The XVII EG-ICE Workshop on Intelligent Computing in Engineering - 2010



| CMT Sign in | Contact us | Registration |

- Home
- Introduction
- eg-ice10 information
- Conference information
 - Venue
 - Organisers
 - Committees
 - Keynote speakers
 - Themes and topics
 - Sponsors & Exhibitors
 - Programme
- For Authors
 - Call for papers
 - Important Dates
 - Author instructions
 - Manage submission
 - Upload submission files
 - Check paper progress
- Accepted papers
- Registration
- Accommodation
- Travel
- Accompanying person



Trent Building - University



Hugh Stewart building - University



Old Square - Nottingham City Centre



Chatsworth House - Banquet location

The International Society for Computing in Civil and Building Engineering (ISCCBE)
and
The European Group for intelligent computing in Engineering
have the pleasure in announcing the icccb2010 Conference and the eg-ice10 Workshop.

Nottingham 30 June - 2 July 2010
UK



Industrial Sponsors and Exhibitors:



- ① BIM & Knowledge Management (知識)
- ② Computational Mechanics (機械学評価)
- ③ Construction and Management (建設、施工計画)
- ④ Design Support and optimisation (設計支援)
- ⑤ Education (教育)
- ⑥ Simulation and Visualisation (可視化)

参加要請があった参加会議等

(1) Day0 (6月29日現地) Registration

発表登録、セッション参加者や座長との打合せ

(2) Day1 (6月30日現地)

1) ASCE Global Center of Excellence in Computing

ASCE (米国土木学会) における情報化事例や動向

2) The Intelligent Computing Committee of ASCE

米国土木学会 情報利用委員会の組織体系や活動事例の紹介

(3) Day2 (7月1日現地)

1) EG-ICE Assembly

英国土木学会の組織体系や活動事例の紹介

2) ASCE TCCIT EDU Committee Annual Meeting

米国土木学会における教育活動

(4) Day3 (論文発表日) (7月2日現地)

Session (Simulation – VR & Visualisation)にて論文を発表



1) ASCE Global Center of Excellence in Computing

ASCE（米国土木学会）における情報化事例や動向についての発表があった。米国ではBIMが建築や土木分野において、適用される事例が増えてきている。

しかしながら、導入事例は大手ゼネコンや専門業者が主体であり、サブコン（中小建設業者）ではあまり進んでいない。また、導入効果は定性的な評価が主体

→今後、定量的評価として投資対収益（ROI）を示すことが必要

2) The Intelligent Computing Committee of ASCE

米国土木学会 情報利用委員会の組織体系や活動事例の紹介

1) EG-ICE Assembly

英国土木学会の組織体系や活動事例の紹介

2) ASCE TCCIT EDU Committee Annual Meeting

米国土木学会を主体とした、建築・土木技術者に対する教育訓練の必要性について紹介があった。近年の土木における情報化施工や建築におけるBIMにおいて、従来の建築・土木技術の知識に加え、情報処理技術を身につける必要性があるとともに、資格等として評価する可能性についての議論がなされた。

・BIM マネージャ：大型の建設プロジェクトにおいて、複数のソフトウェアを用いて意匠設計、構造設計等を統括する人物を想定。

・BIMマスター：ソフトウェアを用いて、意匠設計、構造設計等を行うことができる人物を想定。

1) 論文要旨

ICTを適用したモデル工事の実施に先立ち、国内外の建設分野におけるICTの動向として3次元データに着目し、既存の橋梁設計・施工成果を例に、現状の業務プロセスにおいて流通している情報を利活用することで得られる効果の予備的検証を行った事例を報告した。

2) 質問等

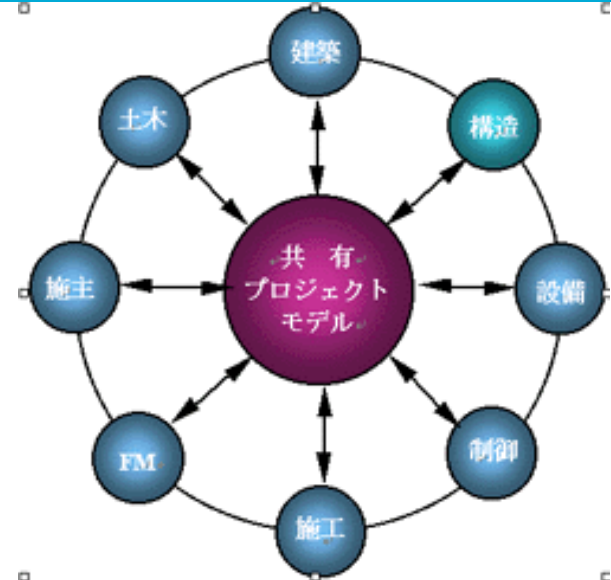
- ・今回、作成した3次元モデルには、IFCモデルを利用しているのか？
- ・日本では、2次元図面の仕様として、SXF (P21) を策定しているが、3次元仕様を開発する予定はあるのか？



次回開催は、2012年モスクワ大学（ロシア）

その他（個人的意見）

・ 前回の中国開催（2008）に比べ、IAI（International Alliance for Interoperability）のIFCモデルを利用した、論文が増えている（一般化）ように感じた。



・ 建設分野における情報技術者の利用及び教育・普及に対する要望が増えるのではないかな？

→各地方整備局における情報化施工に関する取り組み

→CADソフトの統一

・ 実用的な建設部門における専門分野（道路、河川、構造等）の情報化に必要な技術的標準仕様（データ体系、構造、オブジェクトパッケージ）を先行して提供する、市場優位性があるのではないかな？

その他

・アジア圏からの参加は**中国が約40名と最も多く、日本からは約10名程度**であった。そのため、アジア建設IT円卓会議の中国側のキーマンでもある**中国清華大学馬智亮教授等より、JAC/Cの参加数が少ないこと等を質問**された。

・英国リーズ大学（institute for Resilient infrastructure, University of Leeds, UK）のワトソン氏（Dr. Alastair S Watson）は、**建設分野の情報化や活性化を推進するための施策の必要性**を述べていたため、日本のCALS/ECアクションプログラム2008に興味を持たれていた。